

オランダ自転車市況-2016

1. 全体の販売動向

RAI (オランダ車輛工業会)、BOVAG (オランダ自動車自転車商業組合)によると、2016 年のオランダ自転車市場の販売台数は前年比 5.6%減の 92.8 万台となり、2 年続けて 100 万台の大台を割り込んだ。一方、販売金額については、2016 年は前年比 4.2%増の 9 億 3,683 万ユーロ (1,171 億 375 万円)となり、ここ 5 年間増加を続けている。販売台数の不振にもかかわらず、販売金額が年々上昇を続ける理由は、様々な車種の中でも比較的販売価格の高い電動アシスト自転車 (EPAC) の販売が堅調に推移しているためである。

平均販売価格については、上述の EPAC 販売の堅調により、2016 年は自転車販売業全体では前年比 10.5%増の 1,010 ユーロ (126,250 円)となり、従来から高額商品の取り扱いが多い自転車小売専門店は、同比 3.1%増の 1,091 ユーロ (136,375 円)となった。いよいよ全業態の平均価格も 1,000 ユーロの大台に乗り、同国の平均販売価格は、他の欧州諸国と比べてもその高さが一層目立った。

表 1: 自転車販売台数及び金額の推移

年	2012	2013	2014	2015	2016
販売台数(万台)	103.5	100.8	105.1	98.3	92.8
販売金額(万ユーロ)	76,916	79,726	88,661	89,902	93,683

表 2: 平均販売価格の推移 (単位:ユーロ)

年	2012	2013	2014	2015	2016
平均価格(全体)	743	791	844	914	1010
平均価格(自転車小売専門店)	964	989	974	1058	1091

2. 業態別、価格帯別販売動向

業態別売上比率は、「自転車小売専門店」は前年より 6 ポイント増加し 76%となった。それに伴い、ディスカウントストアやネットショップを含む「量販店、スーパーなど」は前年より 6 ポイント減の 24%となった。自転車小売専門店の売上比率は、ここ数年、減少傾向にあり、7 割の大台を切るまでに落ち込んだが、2014 年以降、復調しつつあり 2000 年代前半の頃の 75%前後の水準まで戻した。オランダの消費者は、品質やサービスを重視し、自転車小売専門店で購入を希望する傾向が強く、特に EPAC 購入の場合は、その傾向が顕著となり、安価な輸入車よりも高品質のブランド車が好まれているとみられる。

価格帯別売上比率は、300 ユーロ (37,500 円)以下の最も低い価格帯は前年より 1 ポイント減の 11%となり、ここ 5 年間で見ると比率は半減している。それに次ぐ 301~499 ユーロ

(37,625～62,375円)の価格帯も前年より1ポイント減の16%となった。一方、中価格帯の500～699ユーロ(65,500～87,375円)は1ポイント増の22%となり、高価格帯700～899ユーロ(87,500～112,375円)は1ポイント減の15%と2年続けて減少した。しかしながら、最高価格帯900ユーロ(112,500円)以上は、2016年は2ポイント増の35%に達し、同年も最高価格帯が最多比率となり、この価格帯だけで全体の3分の1超を占めている。ここ数年のEPAC販売増が、高価格帯移行の傾向が続く要因の一つであると考えられる。

表 3: 業態別売上比率の推移

販売形態	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
自転車小売専門店	66%	68%	71%	70%	76%
量販店、スーパーなど	34%	32%	29%	30%	24%

表 4: 価格帯別売上比率の推移

価格帯(EURO)	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
300以下	22%	18%	14%	12%	11%
301～499	11%	15%	17%	17%	16%
500～699	17%	21%	22%	21%	22%
700～899	20%	18%	20%	16%	15%
900以上	30%	30%	27%	33%	35%

3. 車種別販売動向

車種別売上比率では、オランダで人気のシティ車(ダッチバイク)を含む一般用自転車が、2年前に過半数を割り込んでしまったが、2016年は前年より1ポイント増え43%で、いまだに最多比率の車種である。ハイブリッド車(クロスバイク等)は前年より1ポイント増の6%となったが、子供車は前年より2ポイント減少し12%となった。

電動アシスト自転車(EPAC)については、前年より1ポイント増の29%となり、年々増加し3割に迫る勢いである。なお、2016年のEPAC販売台数は前年比1.8%減の27.1万台となり、僅かながら前年より販売台数が減少したものの、RAIでは自転車全般の販売台数が落ち込む中でもEPAC販売は健闘したと肯定的に捉えている。

表 5: 車種別売上比率の推移

車種	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
一般用自転車	51%	50%	51%	42%	43%
ハイブリッド車	8%	8%	7%	5%	6%
子供車	14%	13%	12%	14%	12%
電動アシスト自転車	17%	17%	21%	28%	29%
その他 ※	10%	10%	9%	11%	10%

※その他には MTB/ATB、ロードレーサー及び折りたたみ車が含まれる

表 5: 電動アシスト自転車販売台数の推移 (単位:万台)

年	2012	2013	2014	2015	2016
電動アシスト車販売台数	17.5	19.2	22.3	27.6	27.1

4. 買収問題

近年、拡大を続けるオランダの自転車企業ポン・バイク (PON BIKE) の親会社ポンホールディングスは、現在、欧州最大の自転車企業グループといわれるアクセルグループの買収を2017年4月に提案した。両社が統合されれば名実ともに世界の自転車企業体となるが思われるが、アクセル側は検討の結果、この提案には応じないことを決めた。今後、この買収がどのように進展するのか不透明ではあるが、その結果によってはオランダのみならず欧州全域、更には世界の自転車市場にも影響を及ぼすことも考えられ、この買収問題の推移は大変注目される。

参考: アクセル/PON 主要ブランド一覧

	アクセルグループ	PON BIKE
シティ車、 トレッキング車	BATAVUS★ SPARTA★ KOGA WINORA★ STAIGER★ TUNTURI RALEIGH(UK) Atala	Gazelle★ UNION KALKHOFF★ RIXE
スポーツ車	HAIBike★ GHOST LAPIERRE NISHIKI RALEIGH(US) DIAMONDBACK	FOCUS★ UNIVEGA★ cervelo SANTA CRUZ
部品・付属品	XLC	BBB

★電動車にも注力

以 上

統計出所: RAI/BOVAG

参考資料: アクセルグループ・プレスリリース (4/11、4/12 及び 5/2 付)

ポンホールディングス・プレスリリース (4/11、5/2 付)